

## 第2回 飯山市行政改革推進委員会 顛末（要約）

日時 平成30年8月6日（月）午後4時00分  
場所 アイネット飯山 3階 会議室

### 1 開 会（課長）

### 2 会長 あいさつ

お暑い中ご苦勞様です。1カ月以上雨らしい雨がでないが、米農家を中心に水不足が心配。今日は今後の飯山市を考える大事な会議、皆さんから忌憚のないご意見をいただきたい。

### 3 審議（進行は会長）

#### (1) 飯山市第6次行財政改革大綱（素案）について

事務局 配布資料に基づき説明。

会長 「行政改革」一言でいうと簡単ですが大変大事で難しいこと。この地域がおかしくなれば職員も減らさなければならない。目標値は出来るだけ上を目指し高く設定する必要がある。結果として達成出来なくてもやむを得ないが、最初から低い目標を設定するものではないと考える。歳入をいかに増やすか、そのためには何をしたらいいのかという事を改革の一つとして挙げてほしいと考えている。昨日も市の公民館で木質バイオマスの説明会があったが、ここ20数年間大きな企業が飯山に来ていない。常盤の工業団地約7haが空いたままになっている。ここに企業が入れればこの問題が解消し、改革の一つにもなると思う。

時間の範囲内で何でも構わないので皆さんからご意見をいただきたい。

委員 前回の会議で感じたことを資料にまとめた。特にインフラ整備に関心がある。古代ローマのように繁栄をした後世界遺産になるような現状にならないように。日本全体がここ半世紀ぐらいで格段に便利になった。このままさらに便利になるか不安がある。

事務局 かつての行革はスリム化が主であったが、現在は子育て・除雪・高齢者対策等市民サービスのニーズが広まっている。移住定住施策は他の自治体と競争している現状。行政の仕事はさらに増えてくることが予想される。財源を見つけて住民サービス、安全対策を含めた市民の住環境を整えていく必要がある。第6次行財政改革大綱には具体的な方針を盛り込む必要があると考えている。

委員 資料にある職員数は正職のみか臨時職員を含めた数か。

事務局 正職のみの数。

委員 耳ざわりの良い言葉ではなくきちんと現状を出してほしい。痛み分けではないが、家庭に例えると、収入が減るのであれば支出の何を我慢するのか、どうやって外で稼いでくるのか、市でもそういうことになると思う。自分のこととして現状をしっかり認識し、皆さんで共有する必要がある。地域での排雪時における地元負担割も変わり増えてきた。移住希望者が移住した時、集落から1軒ポツンと離れた場所への移住とならないようにするなど、具体的にいろんなことを考える必要がある。

施設使用料については具体的に考えていることはあるのか。

事務局 例えば公民館、体育施設等の維持管理が使用料で賄えているかどうか、利用者

負担基準等を考える必要があると考えている。

委員 今具体的に廃止を考えている施設はあるのか。

事務局 個別にはないが、公共施設等総合計画では今後20年間で20%以上の延床面積を削減する目標を掲げている。

委員 施設の命名権による財源確保や市所有の未利用地を一般に貸し出すなど、収入金の確保を考えたらどうか。

委員 5年後の基金残高18億円の確保や19,000人の人口維持が大きなテーマで、何を削るかの出し合いだと思う。

委員 削るのは事業をやめればいいが、それを行わずに収入を増やすのが難しい。人に頼んでお金をかけるのではなく、自分でやってみようなど、少しずつの積み重ねが大切。除雪出動基準等も含めここで出し合い議論したい。

委員 国からくるお金は資料ではどの部分か。

事務局 6ページ上の表の歳入の中に国からの補助金等も入っている。

委員 年間一定の金額が入ってくるのか。

事務局 地方交付税はほぼ一定。ハード事業に対する国の補助金は年によって違う。

委員 過疎債は借金であるが、どんな事業に使われているのか。

事務局 国の補助金も活用しつつ、駅周辺整備等に過疎債を使ってきた。

委員 過疎債が終了する予定とのことだが、過疎債で行っている事業をやめるという選択肢はないのか。

事務局 2020年度以降、施設整備の予定に対し、起債の活用はあまり見込んでいない。

委員 過疎債がなくなった後は基金を取り崩さなければならず、そのための対策を考えなければならない。という事か。

事務局 過疎債は、交付税措置率が高く有利な起債と言われているが、あくまでの借金なので返済金額より借入金額の方が大きくならないよう、できるだけ借入金額の方が小さくなるよう借入計画を立て財政運営をしている。

委員 2020～2022年度の歳入不足は示されているが、厳しい状況を市民の方に示していないと納得しないと思う。財政的に厳しい状況を市民と共有することで、どこかを譲らなくてはいろいろな議論されるのではないか。

委員 市民理解という部分で、若い世代と私たち世代との理解の違いがあるように感じる。例えば子ども館きらら、素晴らしい施設が無料で利用できるが、若いお母さん方は当たり前だと感じている。除雪に関しても昔と比べてよくなり素晴らしい環境になった。この素晴らしい環境がこの先も保証されたものではないという事を、私たち世代が折に触れて若い世代に伝えていくことが大事だと感じている。

委員 ふるさと館の資料でうちのおじいちゃんの働く姿の写真があった。ひいおじいちゃんやおじいちゃんがいる家庭では昔の不便な状況の話を知ることができたが、そういう話を聞いていない人は今の便利な生活が当たり前だと感じているのではないかと思う。改革に向けた取り組みとして人材育成があるが、人材育成は小さい子供の時に行うものだと思う。飯山ならではのスポーツとしてクロスカンリースキーやジャンプがあり、小さい時にそういうスポーツを通して人材育成ができるのではないかと感じている。

委員 昔は外での遊びがスポーツに繋がっていた。今はスキー実習の時間を増やしたいが増やせない、という課題があると聞いている。

委員 昔は学校の先生はスキーができ教えてくれた。今はコーチにお願いしてスキー指導をしている。そんなことも影響しスキーをする子供たちが減っているのか。

委員 スキー指導のできる先生は少なく、さらに飯山出身の先生も少ない状況も影響しているのではないか。また、義務教育の中でやらなきゃいけない内容がどんどん増えている。英語がその筆頭であり、英語ができないのに英語指導をしなくてはならない。ゆとりの時間がカットされている。

委員 若い世代が飯山に残り世代ごとにバランスあるのが理想。市役所の職員はUターンの就職場所の一つとしても重要で、それを減らすのがいいとは一概に言えない。行政サービスでは都会に勝てない。雪を活かすなどある一部分に特化した行政を行うというのも生き残るためには大事ではないかと思う。

委員 施設使用料の話があったが、飯山のジャンプ台の使用料は他のジャンプ台より安い。施設内容も違うため一概には言えないが、飯山は優しい料金設定だと言われる。施設の命名権などは面白いと思う

会長 行政改革は広範囲にわたる内容である。飯山に若者が定着しない理由として、飯山で家を建設するには雪のことを考慮し、雪のない地域より広い敷地が必要になることも考えられる。また、移住者には建設時の補助金があるが、飯山にいる人には補助金がない。ここにいる人も大事にする必要があると思う。

事務局 これからはコミュニティ機能の維持も課題になってくると考えられる。

委員 集中的にまちなか等に住んでもらうような施策も必要になってくるのではないか。

委員 公共施設についての今後を考えるのであれば、遊休資産の売却も同時に考えていく必要がある。事務事業評価の推進では甘く、評価の徹底だと思う。事務事業評価が行革の事務的な目玉にすべき。予算は努力しているところに付けるべき、という考えでやっていかないと限りある財源を活かせない。自然収入が減る中でふるさと納税制度の活用を考え、返礼品の充実だけではなく遠隔地市民のような定着されるものを考えないといけない。

委員 お米の返礼品は減ってきている。現場の話として、これをいつまでも当てにしてよいか、という話がある。まだ、他との競争ができるうちに、今のアイデアを検証し、対応していく必要がある。

委員 ふるさと納税に関しては入ったものもあるが出たもの（他市へ納税した）もあるの

ではないか。リピーター率も押さえている必要があると思う。

委員 ふるさと納税者へ市の広報誌や年間行事のチラシを同封することで飯山のファンを増やすことも大切だと思う。

委員 飯山出身の故郷を思う人への情報としては大事になると思う。

委員 都会に住み北信濃新聞を取り寄せている人もいると聞く。飯山市をまず知ってもらうことが大切。

委員 移住の情報も加えられれば。

委員 「知られざるは無に等しい」という言葉もあるので努力してほしい。

会長 この会議は限られた回数の中ではあるが、引き続き活発なご意見をいただきたい。この地域に思いがあると思うので次回の会議までにご意見をいただき、次回にはある程度まとめた内容となるようにしたいと考えている。委員の意見を反映してある程度の改革案を事前に示すようにしてほしい。

委員 インバウンド効果の飯山市の外貨獲得等、数値的に表れているようでしたら示していただきたい。

事務局 可能な範囲で調べてお示ししたい。

#### 4 次回の開催日程について

事務局 9月下旬から10月上旬に別途、委員と調整し決めたい。

#### 5 その他

特になし

#### 6 閉 会（課長）

##### 出席委員

会長 伊東 博幸（飯山商工会議所 会頭）  
職務代理 佐藤 正行（飯山市区長会協議会 会長）  
委員 丸山 直之（八十二銀行飯山支店 支店長）  
委員 荻原 育夫（ながの農業協同組合 みゆき地区副組合長）  
委員 服部 秀人（学識経験者）  
委員 田中 妙子（飯山市人権同和男女共同参画推進員会 会長）  
委員 大日方 眞理（飯山市農村女性団体連絡会 会長）  
委員 高柳 克章（一般社団法人みゆき野青年会議所 理事長）  
委員 鷲森 秀樹（飯山市若者会議 会長）  
公募委員 塩崎 誠  
公募委員 平野 正美

事務局 総務部長 石田 一彦  
事務局 企画財政課長 湯本 與志一  
事務局 財政係長 木村 裕之  
事務局 企画調整係長 丸山 真央  
事務局 企画調整係 深堀 芳雄